

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 3 月 20 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	楊木 萌

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)																			
ウガンダ共和国・キバレ国立公園																			
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)																			
ウガンダ・キバレ国立公園におけるアフリカゾウ個体群の生息地利用調査																			
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)																			
平成 30 年 1 月 7 日 ~ 平成 30 年 3 月 1 日 (54 日間)																			
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)																			
Makerere University Biological Field Station (MUBFS) Project Director Patrick Aria Omeja																			
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)																			
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>この度私は2018年1月7日から3月1日にかけてウガンダ共和国のキバレ国立公園にてフィールド調査を実施した。自身の修士論文執筆のためのデータ収集が今回の渡航の目的である。 以下、渡航中の日程を示す。</p> <p>【日程】</p> <table border="0"> <tr> <td>1月7~8日</td> <td>京都→伊丹空港→成田空港→ドーハ空港→エンテベ空港→カンパラ</td> </tr> <tr> <td>1月9日</td> <td>カンパラにて情報収集、調査準備</td> </tr> <tr> <td>1月10日</td> <td>カンパラ→フォートポータル→キバレ国立公園(MUBFS)</td> </tr> <tr> <td>1月11~19日</td> <td>キバレ国立公園にて現地調査</td> </tr> <tr> <td>1月20日</td> <td>クイーンエリザベス公園にてゾウの観察</td> </tr> <tr> <td>1月21日~2月25日</td> <td>キバレ国立公園にて現地調査</td> </tr> <tr> <td>1月26日</td> <td>キバレ国立公園→エンテベ</td> </tr> <tr> <td>1月27~28日</td> <td>エンテベ空港→ドーハ空港→成田空港</td> </tr> <tr> <td>3月1日</td> <td>羽田空港→伊丹空港→京都</td> </tr> </table> <p>【調査背景】</p> <p>ウガンダにおけるキバレ国立公園は森林と草原が混在する約 795 km² のフィールドであり、アフリカゾウは公園内の広い行動域を移動している。同地は本来、サヴァンナゾウの生息地であるが、近年隣国コンゴ民主共和国からシンリンゾウが移入してきている。結果として、ゾウの個体数が増加し、またサヴァンナゾウとシンリンゾウのハイブリッドが増加していると報告されている。しかし、ハイブリッド個体群の生態は未だ明らかになっておらず、個体数の増加に伴う近隣住民との衝突を削減し、絶滅危惧種であるアフリカゾウの保護を進めるためには、彼らの生態を理解することが第一に必要である。このような背景から、本研究ではキバレ国立公園のゾウ個体群の生活様式・特徴を把握し、実践的な保全・管理に役立てることを目的とした。</p> <p>【調査結果】</p> <p>今年度のフィールド調査では、彼らの食性、生息地利用の特徴を把握するため、糞分析や、様々な植生下・土地条件における踏査調査(ラインセンサス)を行った。糞分析から果実、木、葉などの割合を測定し、調査中に記録した糞等の痕跡を用いて、草原・二次林・原生林などの植生や、水源からの距離、NDVI(Normalized Difference Vegetation Index)、標高などの環境の差異における生息地の利用傾向を分析</p>		1月7~8日	京都→伊丹空港→成田空港→ドーハ空港→エンテベ空港→カンパラ	1月9日	カンパラにて情報収集、調査準備	1月10日	カンパラ→フォートポータル→キバレ国立公園(MUBFS)	1月11~19日	キバレ国立公園にて現地調査	1月20日	クイーンエリザベス公園にてゾウの観察	1月21日~2月25日	キバレ国立公園にて現地調査	1月26日	キバレ国立公園→エンテベ	1月27~28日	エンテベ空港→ドーハ空港→成田空港	3月1日	羽田空港→伊丹空港→京都
1月7~8日	京都→伊丹空港→成田空港→ドーハ空港→エンテベ空港→カンパラ																		
1月9日	カンパラにて情報収集、調査準備																		
1月10日	カンパラ→フォートポータル→キバレ国立公園(MUBFS)																		
1月11~19日	キバレ国立公園にて現地調査																		
1月20日	クイーンエリザベス公園にてゾウの観察																		
1月21日~2月25日	キバレ国立公園にて現地調査																		
1月26日	キバレ国立公園→エンテベ																		
1月27~28日	エンテベ空港→ドーハ空港→成田空港																		
3月1日	羽田空港→伊丹空港→京都																		

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

した。糞の検出率及び密度推定には DISTANCE software を用い、水源からの距離、NDVI、標高の解析には QGIS を用いた。結果、糞分析の結果からは果実食の割合はシンリンゾウで報告されているものよりも低く、生息地の利用頻度は二次林、草原において有意に高く、原生林では低いことが明らかとなった。これらの結果は彼らの行動を予測するために重要な情報であり、公園と接する近隣農村において、農作物の被害を防ぐための対策を重点的に行うべき地域、箇所がこれらの結果から示唆された。

今後、今回の調査でゾウの新鮮糞から採取した DNA サンプルの分析を用い、当个体群の遺伝的多様性、二種の分布状況を把握するべく分析を進めていきたい。



写真 1, 2 キバレ国立公園での現地調査の様子



写真 3 公園の近隣村にて、ゾウに荒らされた農作物

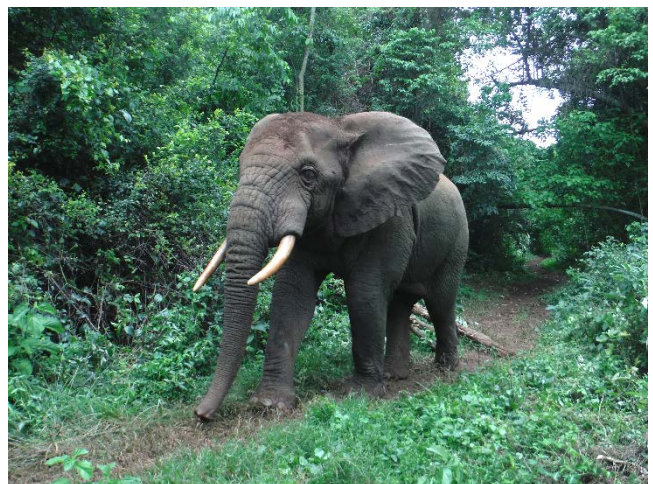


写真 4 カメラトラップにより撮影されたゾウ

6. その他 (特記事項など)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

本調査は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて実現することができました。本渡航のために様々な手配をしてくださった皆さまに深く感謝申し上げます。調査中の宿舎での滞在を受け入れて下さった MUBFS (Makerere Biological Field Station), 調査許可, サンプル輸出許可を与えて下さった UWA (Uganda Wildlife Authority), UNCST (Uganda National Council for Science and Technology) につきましても, 心より感謝申し上げます。